

今年のコシヒカリの幼穂形成期は昨年よりやや早く、7月11～15日頃と推測されます。

草丈はやや長く、葉色の低下が緩慢なほ場が多くみられ、今後倒伏が懸念されるため、1回目の穂肥は慎重に実施して下さい。

表1 コシヒカリの幼穂形成期と穂肥時期の目安

田植日	幼穂形成期	穂肥施用時期
5月15日	7月14日頃	7月22日頃

農薬を散布するときには、散布用マスクや手袋を必ず着用して安全に作業しましょう！

1 コシヒカリの穂肥施用

《一発肥料（なのはな有機一発基肥1号、2号等）》

◎一発（肥効調節型）肥料を施用したほ場は、原則、追肥はしません。

ただし、出穂7～10日前（7月末ごろ）に必ず葉色診断を実施し、葉色が3.8（砂壤土は4.0）以下の場合は、追肥化成3号を5～7kg/10a施用しましょう。

《分 施》

◎1回目の穂肥は幼穂長15mm（2mm確認8日後）を基本とし、草丈が長い場合は施用を控えましょう！！

表2 穂肥施用の目安（分施の場合）

穂肥施用時の生育状況			1回目穂肥	2回目穂肥 （1回目穂肥の7日後）
草丈	茎数	葉色		
85cm未満	430 (本/㎡)	3.6程度	追肥化成3号 10kg/10a以内	追肥化成3号 10～13kg/10a
90cm以上	「茎数500本/㎡以上」かつ 「葉色3.8以上」		施用しない	追肥化成3号 10～13kg/10a



2 今後の水管理

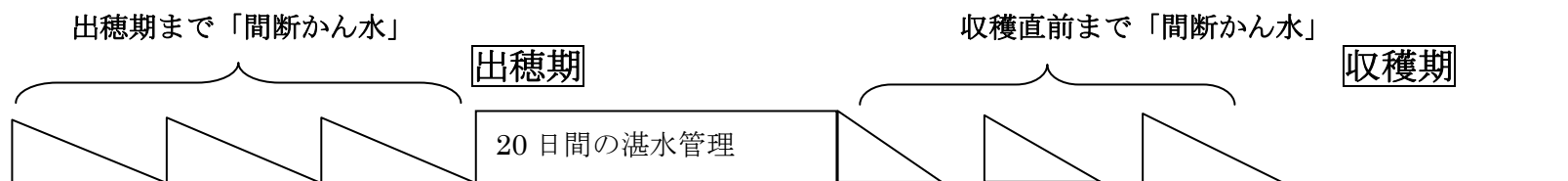
《出穂期まで》～きめ細やかな水管理で根の活力を維持！～

◎ 間断かん水を基本とし、水不足にならないよう注意しましょう。

《出穂期以降》～稲体の活力を維持し、登熟を向上！～

◎ 出穂後20日間は湛水状態（田面が出ない程度）を保ち、稲体の活力を維持しましょう。

◎ フェーンが予想される場合は、事前に入水しましょう。



3 病虫害防除

雑草地のカメムシ調査では、斑点米を発生させるカメムシが多く捕獲されています。斑点米やいもち病の発生を防ぐため、適期基本防除を徹底しましょう！！

＜散布量と防除時期の目安＞

	防除時期	薬剤名	散布量	早生	中生
粉剤	出穂直前 (収穫21日前まで)	ブラシンバリダ粉剤 DL	3～4kg/10a	7/17～19	7/30～8/1
	穂揃期 (穂揃期まで)	ゲットワン粉剤 DL	3～4kg/10a	7/29～31	8/6～8
	傾穂期 (収穫7日前まで)	トレボンスター粉剤 DL	4kg/10a	8/5～7	(随時)
粒剤	出穂5～10日前 (収穫35日前まで)	イモチエースクラップ粒剤	3kg/10a	7/20～22	7/28～30

《留意事項》

◎カメムシ類の防除効果を高めるため、散布間隔は7日間を目安とし、10日以上あけない。

◎農薬を散布するときには、散布用マスクや手袋を必ず着用して安全に作業しましょう。

農薬は使用基準を正しく守るとともに、飛散防止のため風のない時に散布しましょう